

災害時における感染対策の備え！



＜被災地で一人一人ができる感染対策とは＞

未曾有の地震災害により、多くの方が避難生活を強いられ、避難所では感染症のリスクが高まります。そのような環境においては、感染症を予防することが大切になってきます。

厚生労働化学研究班による「**避難所における感染対策マニュアル**」や、国立感染症の「**アセスメントに基づく感染症**」は、参考になりますので一度ご覧になって下さい。

避難所での注意事項

- ・マスク着用、手洗い、うがいを心がける
- ・1日数回は窓を開けて換気をする
- ・ベッド・布団は1m以上離すのが望ましい
- ・炊き出しやおにぎりを作る場合は、手袋を着用する
- ・食器や飲み物の容器は共有しない
- ・定期的な清掃による清潔保持
- ・がれき処理など外傷後の破傷風予防に気をつける
- ・水が確保しにくい場合、ごく少量の水を定期的に飲む
- ・ゴミ箱にはフタをつける
- ・食品は床から10cm以上の高さに保管する 等々

＜あると感染対策に役立つもの＞

ウェットティッシュ（アルコール性が効果が高い）
アルコール手指消毒剤
マスク、ラップ、ビニール袋、手袋

災害時のお口のケア

水不足により歯磨き、うがいが不十分となり口の中の細菌が増殖し、歯周病や肺炎など発症の恐れがあります

- ・食事はできるだけ規則的な時間に摂取
- ・口呼吸をしない
- ・唾液をたくさん出すために、舌や顎を動かす
- ・入れ歯は、毎回外し洗うかおしぼり等で拭く
- ・コップ2つを使用し、歯ブラシ湿潤用・うがい用にわけて使用する



蚊による感染症拡大をどう防ぐか・・・



デング熱・ジカ熱は・・・

これからの季節は、蚊を媒体とする感染症が発生する恐れがあります

- ・人と蚊の間で感染を繰り返し、人から人へ直接感染はない
- ・3～7日の潜伏期の後 高熱、頭痛、関節痛、発疹などの症状がでる
- ・血小板減少、白血球減少
- ・治療はなく対症療法を行う
- ・デング出血熱には注意が必要

大量発生前に幼虫駆除と対策を・・・

＜幼虫対策＞

- ・不要なものは取り除く
- ・たまり水をなくす

＜成虫対策＞

- ・肌の露出を控える（長袖・長ズボン）
- ・やぶ、草むらをなくす
- ・網戸、防虫網を設置する
- ・虫除け剤の使用



虫除け剤は塗りすぎないこと
手のひらに吹き付けて薄くのぼす
子どもの手のひらや顔には塗らない
6ヶ月未満の乳児には使用しない
日焼けどめは先に塗る